

記者発表資料の訂正について

7月11日に「寺内ダム 河川水位上昇を抑える防災操作を実施」について記者発表を行いました。内容の一部に誤記がありましたのでお詫びして訂正いたします。

- 対象資料名
寺内ダム 河川水位上昇を抑える防災操作を実施
- 訂正箇所
P2 寺内ダムの洪水調節による治水効果（筑後川水系）の箱書き
2つ目の○ の 3行目
- 訂正内容
(訂正前)・・・、10日16時20分に緊急放流を終了した。
(訂正後)・・・、10日16時50分に緊急放流を終了した。

なお、ホームページに掲載している記者発表資料は、上記訂正後のファイルに差し替え済みです。



令和5年7月12日

独立行政法人水資源機構
筑後川上流総合管理所

配布先

西日本新聞朝倉支局
読売新聞筑紫支局
毎日新聞福岡南支局
朝日新聞太宰府支局
国土交通省九州記者会

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 筑後川上流総合管理所 管理課長 山本
住 所 : 福岡県朝倉市江川 1660-67
電 話 : 0946-25-0113
ホームページ <https://www.water.go.jp/chikugo/chikujyo/>

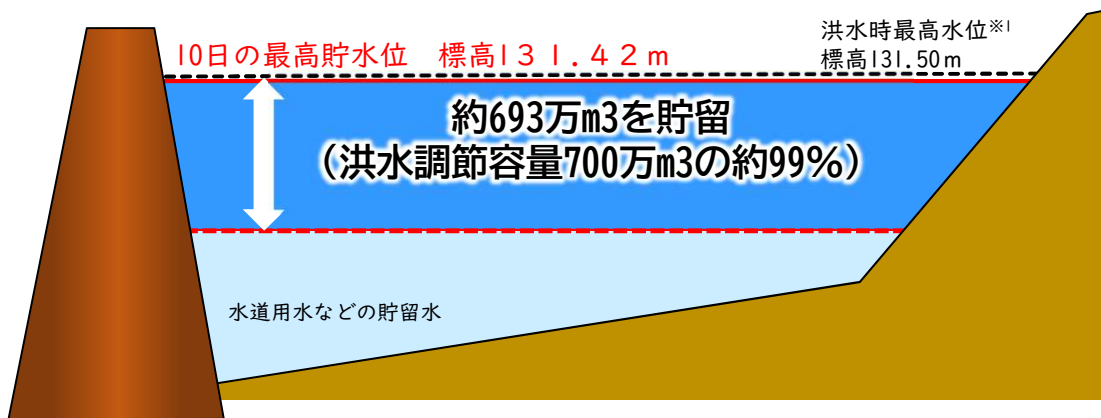
寺内ダムの洪水調節による治水効果（筑後川水系）

速報値

令和5年7月

- 10日未明から九州北部を中心とする線状降水帯を伴う集中豪雨により、寺内ダム上流域では最大時間雨量約72mm(10日午前3時～午前4時)、7日21時の降り始めから約520mmの総雨量を観測しました。この雨量は、寺内ダムの7月の平年雨量の約400mmの1.3倍に相当します。
- 10日9時50分より異常洪水時防災操作いわゆる緊急放流を開始。緊急放流開始後、10時の最大流入量毎秒約530立方メートル時にはダムから約131立方メートルを放流し、流入量の約75%をダムに貯留。11時に最大毎秒約248立方メートルを放流。この後、放流量を増加させずに洪水調節容量を最大限活用する操作を実施し、10日16時50分に緊急放流を終了した。
- 洪水調節容量の約99%を活用し、下流の洪水被害軽減に努めた結果、ダム下流の金丸橋地点において約138センチメートルの水位を低減させることができたと推定。

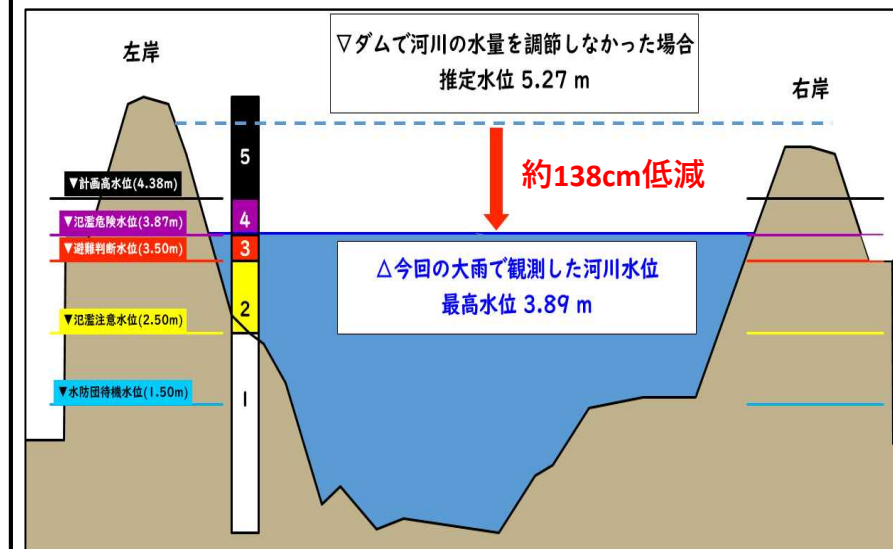
10日の貯留状況



※1 洪水時最高水位：洪水時にダムによって一時的に貯留することとした流水の最高水位

※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査により数値等が変わることがあります。

水位低減効果（金丸橋地点）



寺内ダムの洪水調節により、水位を約138cm低減させたと推定。